



日语注释读物

大干ばつに見まわれてから

(山西省昔陽県人民のたたかいの記録)

遭到大干旱之后

(山西省昔阳县人民的抗旱斗争纪实)

上海人民出版社

本文选自《人民中国》1974 年第 2 期

大干ばつに見まわれてから
遭到大干旱之后

江南造船厂业余学校日语翻译小组注释

上海人民出版社出版

(上海绍兴路 5 号)

新华书店上海发行所发行 上海市印刷三厂印刷

开本 787×1092 1/32 印张 0.5 字数 10,000
1975 年 10 月第 1 版 1975 年 10 月第 1 次印刷

统一书号: 9171·78 定价: 0.06 元

だいかん み 大干ばつに見まわれてから

さんせいしやうせきやうけんじんみん き ろく
(山西省昔陽県人民のたたかいの記録)

いつさくねん ちゆうごく こう ち いき かん
一昨年、中国の広はんな地域は干ばつにおそわれた¹。
かん きよねん はる もうい
この干ばつは去年の春になっても猛威をふるい²つづけた。
だいかん のうぎやうせいさん
この大干ばつにどのように農業生産をおこなったらしい
のであろう³?

さんせいしやうせきやうけんじんみん かん たたか せい かい もんだい
山西省昔陽県人民が干ばつと闘った成果は、この問題に
こたえ
答をあたえている。

し じよう だいかん 史上まれにみる大干ばつ

たいとうさんく せきやうけん かんそうち たい
太行山区にある昔陽県は、もともと乾燥地帯であった。
せんきゆうひやくななじゆうに ねん いちねんかん だいかん
それが一九七二年、一年間を大干ばつにおそわれ、
ゆき ふ ふゆ とし はる あめ
雪の降らなかった冬につづいてあくる年の春もまた雨にめ
ぐまれなかった⁴。連続十七ヵ月間の日照り、これはこの
けん れとし じよう だいかん
県の歴史上まれにみる大干ばつであった。

けんない ご ほん かわ みず た ちやすいち い ど だいが ぶん ひ
県内の五本の川は水が絶え、貯水池や井戸は大部分が干
あが はちじゆうパーセント と ち かん たね
上ってしまった。八〇 % の土地は干ばつのため種まき
もできない⁵。

あめ ま うん てん ひと ちから
そのまま雨を待ち、運を天にまかせるか、人の力でこの
かん う か
干ばつに打ち勝つか⁶?

ぜんこくのうぎようろうどうも はん ちんえいき しよき ちゆうごくきようきん
全国農業労働模範の陳永貴さんを書記とする中国共産
とうせきようけんい いんかい ぜんけん じんみん し どう かん たたか
党昔陽県委員会は、全県の人民を指導して干ばつと闘い、
「みず を かつい てんば ほうほう はる ま にんむ しつてき
水をかついで点播する」方法で春の播きつけ任務を質的に
りようてき かんせい
も量的にもちゃんと完成させた⁷。

みず きゆうまんにん
水をかついだ九万人

みず てんば みず た はた
「水をかついで点播する」ということは、水を田畑までか
つぎ、あな は みず そそ たね みず ひ
つぎ、穴を掘り、水を注いで種をまくのだ。これは水を引
いてかんがい たりよう みず せつやく
灌漑するよりは多量の水が節約できる。しかし、これ
をま すいげん
をおこなうには先ず水源をさがさなければならない。

けんい いんかい し き ぜんけん すいげん たいしゆううんどう
県委員会の指揮のもとに全県で水源さがしの大衆運動
がくりひろげられた。

たいしゆう しん えいゆう ひ あが か しょう なん
大衆こそは真の英雄である。干上った河床を何メートル
か⁸ は き ち か すい はつけん ち か とう ほ みず た
掘り下げて地下水を発見し、地下壕を掘って水を貯め
たひと ふか い ど ほ ひと いずみ み ひと
人たち、深く井戸を掘った人たち、泉を見つけた人たち、
ふる たんこう なか なんねん みず はつけん ひと
古い炭坑の中に何年も⁹ たまっている水を発見した人たち
であった。

すいげん み みず かんすい たね
水源を見つけたあとは、かついだ水を灌水し、種をまく
いそが はこ かくしゆ
という忙しさがひかえていた。そのころは、水を運ぶ各種
くるま どうろ れつ みず ちうじやくだんじよ れつ けいしや
の車が道路に列をなし、水をかついだ老若男女の列は傾斜
ち つづ た はた あな ほ ひと みず ひと たね ひと
地に続き、田畑では穴を掘る人、水をまく人、種をまく人
いそが はたら
が忙しくたち働いた¹⁰。

ぜんけん じんこう に じゆうまん はたら て しちまんにん
全県の人口二十万のうち働き手¹¹は七万人だけだった

が、「水みずををかついでてんぱ点播する」作業さぎように参加さんかした者は九万人もの きゅうまんにんいた。多くの生産隊せいさんたいでは、一家総出いつか そうでで水みずをかつぐ人ひとはかつき、手てに下さげる人ひとは下さげて¹²、われ先さきにこの干ばつかんつとの闘たたかいに尽力じんりよくした。

界都人民公社北界都生産大隊の青年たち百余名は、水運みずはこび突撃隊とつげきたいを組織そしきした。かれらは五十台ご じゅうだいの手押し車て おで、昼夜くるま ちゆうや兼行けんこう、遠くから水みずを運はこんだ。毎日四往復まいにちよんおうふくとしてのべ五十キロご じゅうもある¹³。途中は坂と ちゆう さかや道みちがせまかはねったりしてかなり骨ほねがおれたが、青年たちは疲れなどもつかともせず、一カ月いつ げつあまりの間に十五万荷あいだ じゆうご まんかの水みずを九百ムーきゆうひやく いち（ムーは六・六六七ろくてんろくろくしちール）の田畑た はた はこに運はこんだ¹⁴。

この干ばつかんつとの闘たたかいで、全県各級ぜんけん かんききゆうの幹部かんぶは、みんなの先せん頭とうに立たった。県委員会副書記けんい いんかいふくしよきの趙満倉ちようまんそうさんは、当時とうじ体がわからだるく、事務所じむしょに残のこるように決きめられていたが、時間じ かんを都合つ ごうして¹⁵は近くちかの人民公社じんみんこうしやの水みずかつきさんかに参加した。「わたしわたしたちの昔陽せきようでは、水みずをかついだことかんぶのない幹部かんぶなんてさがせはこってないよ¹⁶、あの人ひとたちはいちばんじんりよく尽力はねし、いちばん骨ほねを折おっ¹⁷ている」と公社の人たちはいっている。

このようにして、全県各級ぜんけん かんぶの幹部かんぶと公社員こうしやいんたちは、五十日ご じゆうにちのあいだににせんろつびやくまんかい じよう みず はこ に じゆうに まん 間に二千六百万荷あいだ以上の水みずを運はこび、二十二万ムーにのトウモロコシたね、コーリヤンき、アワせつの種まを季節きせつどおり¹⁸に播まくことができた。今年ことし、昔陽せきようの一ムーいちあたりの播まきつけには百ひやく荷かの水みずを使つかい、のべ五百キロご ひやくの道みちを歩あるいたことになるとい

うことだ¹⁹。

水^{みず}のゆずりあい

干ばつはこのようにきびしかった。水^{みず}！昔陽^{せきやう}ではそれが
いかに貴重^{きちやう}なものであるかを想像^{そうぞう}することができる²⁰。し
かし、ここでは水^{みず}のゆずりあいという感動^{かんとうてき}的な物語^{ものがたり}がたく
さんいい伝え^{つた}られている。

こうしたことに大寨生産大隊^{だいさいせいさんだいたい}はまっさきによい手本^{てほん}をし
めした²¹。自分^{じぶん}たちの貯水池^{ちよすいち}の水^{みず}を節約^{せつやく}してほかの大隊^{だいたい}に
ふりむけるために、水^{みず}を引^ひいて灌漑^{かんがい}するのをやめ、水^{みず}を畑^{はた}
地^ちにかつぎこんで灌水^{かんすい}することにした²²。

界都人民公社^{かいとじんみんこうしや}槐桤会^{ころうしやいんらんきとう}生産大隊^{せいさんだいたい}の公社員^{こうしやいんらんきとう}陳喜棟^{ちんきとう}さんは、片
足^{あし}の自由^{じゆう}がきかなかった²³。一昨^{いつさくねん}年の冬^{ふゆ}、かれは自分^{じぶん}の家^{うち}
の、日照^{ひで}りに備^{そな}える井戸^{いど}に、少^{すこ}しばかりの水^{みず}をためた²⁴。
去年^{きよねん}の春^{はる}の播^まきつけで、田畑^{たはた}の水^{みず}が足^たらないのをみて、か
れはその水^{みず}を集団^{しゆうだん}のために差^さし出^だそうと考^{かんが}えた²⁵。大隊^{だいたい}の
支部書記^{しぶしょき}は、

「あんたがこれだけの水^{みず}をためるのはたいへんだっつろ
う、あんた自身^{じしん}は水^{みず}をかつぐのもままならないんだから、
これは残^{のこ}しておいて自分^{じぶん}で使^{つか}ったらどうかね²⁶」

といったが、陳^{ちん}さんは

「干ばつとの闘^{たたか}いで忙^{いそが}しかった時^{とき}、わたし水^{みず}かつぎにも
出^でられなかった²⁷。多くはないがこの水^{みず}を使^{つか}ってくれれ

ば²⁸、集^{しゅう}國^{こく}にも干^{かん}ばつとの鬩^{あた}いにも多^た少^{しょう}お役^{やく}にたつと思^{おも}う
がね²⁹」

結^け局^{つぎよく}、生^{せい}産^{さん}大^だ隊^{たい}は彼^{かれ}の井^い戸^どから七^{なな}十^{じゅう}四^よ荷^かの水^{みず}を汲^くんで、
播^まきつ^{つか}けに使う^{つか}ことになった。

李^り家^か荘^{そう}人^{じん}民^{みん}公^{こう}社^{しゃ}南^{なん}渡^ど海^{かい}生^{せい}産^{さん}大^だ隊^{たい}では、旧^{きゅう}炭^{たん}坑^{こう}から水^{みず}を汲^く
み上^あげてトウモロコシを三^{さん}百^{ひゃく}ムー播^まきつ^{つか}けた。その後、ほ
か^せの生^{せい}産^{さん}大^だ隊^{たい}の^{ひと}人^{みずく}が水^く汲^くみに来^くるようになっ³⁰た。すると
こ^せの生^{せい}産^{さん}隊^{たい}の^{ひと}人^{みずく}びと^なの^い中^{けん}に^{たい}意^{りつ}見^いの^い対^い立^ちが^いで^ちて^ぶきた。一^{いち}部^ぶの
人^{ひと}は汲^くませないとい^いう^い意^{けん}見^{けん}で^だあ^だり、大^{だい}多^た数^{すう}の^{ひと}人^くは汲^くませる
べき³¹だ^いと^たい^いう。大^{だい}隊^{たい}の^{とう}党^{とう}支^し部^ぶは、大^{だい}隊^{たい}の^{ひと}人^{みず}た^ちに^{この}こ^の問^{もん}
題^{だい}を^{とう}討^{とう}論^{ろん}さ^せた。

われわれの大^{だい}隊^{たい}が食^{しょく}糧^{りやう}を増^{ぞう}産^{さん}する^{なん}のは何^{なん}のためか?

人^{じん}民^{みん}公^{こう}社^{しゃ}が食^{しょく}糧^{りやう}増^{ぞう}産^{さん}する^{なん}のは何^{なん}のためか?

公^{こう}社^{しゃ}員^{いん}た^らち^{とう}は^{ろう}討^{ろん}論^{ろん}を^じ通^{ぶん}じて、自^じ分^{ぶん}の^{せい}生^{さん}産^{さん}大^だ隊^{たい}が食^{しょく}糧^{りやう}増^{ぞう}産^{さん}
を^きする^きのも、兄^{きょう}弟^{だい}の^{せい}生^{さん}産^{さん}大^だ隊^{たい}を^し支^{えん}援^{えん}して^{かん}干^{かん}ばつと^{たた}鬩^{ごう}い^{ぞう}増^{ぞう}産^{さん}
を^しは^しか^{かい}る^しのも^{けん}³²、み^{けん}ん^せな^つ社^{けん}会^せ主^つ義^ぎ建^{けん}設^{せつ}の^{にん}た^めだ^だとい^いう^し認^{にん}識^{しき}
が^より³³深^{ふか}く^うな^えった。そ^みの^み上^み、水^{みず}を^ひ引^{かん}いて^{かん}灌^{かん}漑^{がい}する^のを^をや
め、水^{みず}を^{てん}か^{てん}つ^ばいで^{みず}点^{みず}播^{せつ}し^や³⁴、で^みき^みる^みだ^みけ^みだけ^{せつ}³⁵水^{みず}を^{せつ}節^{せつ}約^{やく}して^はか
の^{せい}生^{さん}産^{さん}大^だ隊^{たい}を^し支^{えん}援^{えん}する^いこ^いと^いに^{いつ}意^{けん}見^{けん}の^い一^い致^ちを^かみ^かた³⁶。彼^{かれ}ら^は
兄^{きょう}弟^{だい}の^{せい}生^{さん}産^{さん}大^だ隊^{たい}の^{たん}た^んめ^{こう}に^{たん}炭^{たん}坑^{こう}の^そそば^にに^{ポン}プ^をを^すえ^つけ
て^み水^{みず}を^く汲^くみ^おあ^おげ、よ^おり^お多^おく^{ひと}の^み人^{みず}た^ちが^は水^{みず}を^は運^はび、か^つづ^ぐの
に³⁷便^{べん}利^りな^みよう^みに³⁸³⁸、溝^{みぞ}を^は掘^はって^{どう}道^{どう}路^ろの^{そば}ま^でで^み水^{みず}が^{なが}流^{なが}れて
ゆ^くく^{よう}に^{した}³⁹。

社会主義にたよって

このような大干ばつの年に全県の人民は、一致団結してこれだけの大きな意欲と、このように高い風格を生みだした。これは旧中国の農村では考えもおよばない⁴⁰ことだった。

旧社会では、中国の広大な農村を支配していたのは地主階級とその反動政権であった。その頃、地主は自然災害、たとえば干ばつなどに会うと⁴¹、その勢力をカサにき⁴²て水源を独占するので、農民はのみ水にも困るありさまだった。

また、一家族単位の経済ではこのような災害にうち勝つ能力もない。天災と人災に迫られて人びとは故郷をあとにしたり、わが子売って一家離散したりした⁴³。

年よりたちは、一九二〇年の大干ばつときのことをよく覚え⁴⁴ている。今の界都人民公社の区域を例にとれば⁴⁵、当時の人口五千余のうち、餓死者が四百五十余人。故郷をあとにした者が五百八十余人、わが子売ろうき目にあったものが三百七十余人にもたった。

旧社会で悲惨な目にあった老貧農たちは涙をうかべていう⁴⁶。

「旧社会では、日照りの年は天も雨を降らしてくれず、地も作物を育ててくれなかった⁴⁷。いま、わたしたちは、社

かいしゆぎ じんみんこうしや しゆうだんけいざい ひ で
会主義にたより、人民公社の集団経済にたより、日照りの
とし けつこう くら こんなん おお
年にも結構な暮しができる。困難がもっと大きくなって⁴⁸、
おそれるもんか⁴⁹」

しやかいしゆぎ あい じんみんこうしや しゆうだんけいざい しんらい
社会主義を愛し、人民公社の集団経済を信頼しているか
らこそ、公社員たちは何ものにも負けぬ精神ではげしい干
ばつと闘ったのだ。

せきやうけんじんみん かん たたか しやうり
昔陽県人民の干ばつとの闘いは、ついに勝利をおさめ
た。去年の秋のとり入れ期に、村村の脱穀場に高く積みあ
げられたトウモロコシは、日を浴び⁵⁰て黄金色に輝き、脱
穀されたばかり⁵¹のアワが小山のように盛りあげられた。
とし ぜんけん しよくりようそうせいさんりよう じゆういちまんきゆうせんご ひやく
この年の全県の食糧総生産量は十一万九千五百トンに
たし、今まででいちばんの豊年だった一九七一年
よりも千四百トン増加した。年老いた公社員たちはこう言
っている。この一年は「大日照りに、大ふんばりをして、
だいほうさく
大豊作をかちとった」と⁵²。

注 釋

1. “～におそわれる”，遭到了……。 ☆あらしに襲^{おそ}われる
／遭到了暴风雨的袭击。
2. “猛威をふるう”，发作威勢。 ☆台風^{たいふう}が猛威^{もうい}をふるう／
台风刮得凶猛。
3. “～たらいいのであろう”，……才好呢？ 它和疑问词相

呼应，有征求对方意见的语气。在口语里，一般说成“～たらいいでしょう（か）”。☆いつお伺^{うかが}いに行^いったらいいでしょう（か）／什么时候去看你较好呢？

4. 整整大旱了一年，接着又是一冬无雪，一春无雨。“を”，表示动作或作用连续经过的时间。☆十年^{じゅうねん}を過^すぐす／经过十年。“あくる年”，第二年。类似的有：☆あくる日^ひ／翌日。☆あくる朝^{あさ}／次日早晨。“雨にめぐまれなかった”，没有下过雨。“恵まれる”，常用来表示需要的东西都不缺，显示出满意的样子。☆資源^{しげん}に恵^{めぐ}まれている／富有资源。☆よい天気^{てんき}に恵^{めぐ}まれる／遇到个好天气。☆恵^{めぐ}まれた環^{かん}境^{きよう}／好环境。

5. 县内五条大河断流，水库和井大部干涸。百分之八十的土地因为干旱而难以开犁下种。“本^{ほん}”，用来计算细长形态的物件。☆川^{かわ}二本^{ほん}／两条河。☆松^{まつ}の木^き五本^{ほん}／五棵松树。☆鉛筆^{えんぴつ}六本^{ほん}／六枝铅笔。“～てしまう”，表示：（动作）完了。☆食^たべてしま^いってから行^いきましょう／吃完了饭再去吧。它又常用来表示招致了不希望有的结果。这时句子带有遗憾的语气。☆鉛筆^{えんぴつ}を落^{おと}してしま^いった／把铅笔丢了。
6. 是靠天等雨，听天由命，还是靠人大干，人定胜天？“そのま^ま”，照原样。☆机^{つくえ}の上^{うえ}はそのま^までいい／桌子上就那样好了。“～か～か”，或者是……或者是……。☆行^いくか行^いかないか、はやくきめてください／是去还是不去，请早点决定。

7. 用“担水点种”的办法，保质保量地完成今年的春播任务。“^{てき}的”，接在一部分名词后面，表示具有该项性质、方式或方面。☆^{きよういくてし}教育的(な)^{けんち}見地／^{たいしゆうてき}教育上的见解。☆^{さくひん}大众的(な)作品／^{てき}大众化作品。注意：绝不能用“^{てき}的”来代替“^の”。☆^{がつてう}学校的^{せつび}設備(学校的设备)，^{がつてうてきせつび}学校的^{せつび}設備(学校式的设备)。

8. “^かか”，和不定代词结合在一起时，表示不定的意义。☆^かだれ^{つか}かの^を借^りて^{あたら}使^いな^さい／借别人的使使吧。☆^{せいひん}新^{つく}しい^{なん}製品^{げつ}を作るのに何^{なん}ヵ月^{げつ}かか^りました／用了几个月来制造新产品。

9. “^もも”，接在数词后面时具有明显的夸张语气。☆^{はなし}その^{なんべん}話^きはもう何^{なん}遍^も聞^ききました／那件事已经听了好几遍了。

10. 公路上，各种拉水的车成群结队。坡梁上，一行行担水的男女老少络绎不绝。田野里，人们在刨坑，浇水，点籽，忙个不停。“^{たち}たち”，加在动词前以加强语气。☆^{かれ}彼の^{うで}腕^はは^{すぐ}わたくしより^{たち}たち^{すぐ}優^れて^いる／他比我能干。

11. “^て手”，接在一部分动词连用形后构成名词，表示进行该动作的人。☆^{まも}守^てり^て手／保卫者。☆^か買^てい^て手／买主。☆^{はなし}話^{して}し^て手／说话的人。

12. 许多生产队里，全家齐出动，能抬的抬，能提的提。这里，“^水水”是公用的宾语。

13. 每天来回四趟，行程一百多里。“^ののべ”，总计。☆^{たてもの}この^の建^{めんせき}物の^{やくに}延^{せんへいほう}べ^{はう}面積^はは約^は二^は千^は平方^はメ^はートル^はです／这^は建^は筑^は物^は的^は总^は面^は积^は大^は约^は是^は二^は千^は平^は方^は米^は。

14. 一路上，坡陡，路窄，很费劲。可是，这些青年不怕苦，不怕累，硬是在一个多月的时间里，把十五万担水送到了九百亩干旱的地里。“～たりする”，……之类。☆ここで騒い^{さわ}だりしてはいけません／不要在这里吵闹（或类似的行为）。“骨がおれる”，费力气，困难。“ものとし^しない”，不当回事。“せず”是“しない”的文语否定中顿。
15. “都合する”，安排。☆明日^{あした}の会議^{かいぎ}は何か都合^{なん}して是^ぜ非^ひ出席^{しゅつせき}してください／明天的会议请你设法安排一下时间，务必出席。
16. 在我们昔阳，要找一个没有担过水的干部，是很不容易的。“なんて”，常用于举例の場合，等于“などと”。有时候，“なんて”还可带有轻蔑感情。☆彼^{かれ}が病^{びよう}気だなんてうそだ／说他病了，那是胡说。“さがせ^こない”，等于“さがすことができない”（不能找到），口语里常用。☆行^いけ^こない（行くことができない），“出^で来^きこ^こない”（出^き来^きない）。
17. “骨を折る”，尽力。☆皆^{みな}さん^{はね}が骨^おを折^おってくださ^さったのでこの実験^{じつけん}は見^み事^{ごと}に成^{せい}功^{こう}した／由于大家尽力帮助，这个实验搞成功了。
18. “季節どおり”，适时。“とお^り”，照……样。☆も^もとどお^りに置^おいて下^{くだ}さい／请照原来的样子放好。
19. 昔^{むかし}阳^{やう}今^け年の播^は种^{しゆ}，人们说是“千里百担一亩苗”。“～こ^こと^とになる”，（客观条件）决^け定^{てい}……。☆来^{らい}週^{しゅう}から農^{のう}村^{そん}へ行^い

くことになりました／決定下星期到农村去。“～ということだ”，听说……。☆五十万人が園遊会に参加したということだ／据说五十万人参加了游园会。

20. 人们可以想象，水，在昔阳是多么珍贵。“いかに～か”，多么……。

21. 在这方面，大寨大队首先做出了好榜样。“こうした”，这样的。

22. “ことにする”，决定。注意：“ことにする”表示由自己决定，而“ことになる”表示由外因决定。☆今年^{ことし}はうちへ帰^{かえ}らないことにする／我决定今年不回家。☆主任^{しゅにん}と相談^{そうだん}した結果^{けつか}、実験^{じつけん}を一週^{いっしゅうかんく}間繰り上げることになった／和主任商量的结果，决定将实验提前一星期。“ことにする”如果接在过去时后面，表示：就算作。☆話^{はなし}はついたことにする／就算是说定了。

23. 腿有点残废。“片^{かた}”，表示一对物件的一个，或表示不完全。☆片眼^{かため}／一只眼。☆片言^{かたこと}／不明了的话。

24. 积了一些水。“ばかり”，强调“少し”的程度。☆コップ^{はんぶん}に半分ばかりの水^{みず}が入っています／杯子里有半杯水。

25. 他想把井里的水献给集体。“と考える”和“と思う”接在动词推量形后，表示：想，打算，认为。☆わたしたちは北京^{ペキン}へ行こうと^い考えている(思っている)／我们打算到北京去。

26. 大队党支部书记对他说：“你攒下这点水不容易，你自己

担水又不方便，还是留下自己用吧！”“あんた”，等于“あなた”，一般用于口语。“たいへん”，了不得。☆たいへんな^{て つづき}手続だ／手续太麻烦了。“ままならない”，不如意，不随心，等于说“^{おも}思うようにならない”。“ん”，等于“の”，用于口语。“どうかね”，怎么样啊。☆今日の^{きょう}天気は^{どう}かな／今天的天气怎么样？

27. 抗旱这么紧，我不能去担水。“わたしゃ”，等于“わたしは”，用于口语。

28. 献出这点水……。 “多くはない”，不多。☆^{おほく}多くはないが^{じつぱん}十本ぐらいはあるだろう／多没有，十根左右是有的。“てくれる”的敬语是“てくださる”，请……。

29. 也算我对集体、对抗旱的一点贡献。“多少お役にたつ”，多多少少起点作用。

30. 后来，别的大队也到这里来担水了。“ようになる”，表示状态的转变。比如由不会到会，由贫穷到富裕。有时不一定要直译出来。☆もう日本語で^{にほんご}簡単な^{かんたん}手紙が^{てがみ}書けるようになった／已经能用日语写简单的信了。

31. “べき”，应该，值得。☆わたしたちは^{かくほうめん}各方面でしかるべき^{やくわり}役割を^{はた}果すべきです／我们应该在各方面发挥应起的作用。☆これはわれわれの^{ちようい}注意すべきことである／这是值得我们注意的。

32. “～も～も”，不论……或者……。☆昨日も^{きのう}今日も^{きょう}零度^{れいど}まで^さ下がった／昨天和今天都降到了零度。

33. “より”在这里是用作副词，表示比一般程度更……。

34. 而且，把引水灌溉改成担水点种。“その上”，加之，而且。

35. “できるだけ”，尽可能。☆出来るだけ早く来てくださ
い／请尽可能早点来。

36. “みる”，表示迎来了新的状况，等于“～するに至る”。
☆完成^{かんせい}を見る／终于完成。

37. “のに”，形式体言“の”和格助词“に”的重叠(不是逆态
接续助词)。注意区别：☆日本語を半年^{に はんご}ぐらい^{はんねん}習^{なら}ってそん
なにうまくなったのに^{ほんとう}本当に^{おどろ}驚いた／学习日语半年后有
那样的成绩，真感到吃惊。☆静^{しず}かなのに^{ねむ}眠れない／(屋
里)很静，却睡不着。

38. “ように”，接在连体形后面，表示目的。☆風邪^{かぜ}をひか
ないように^{あつぎ}厚着をする／多穿衣服，免得伤风。

39. 干脆开了一条水渠，把水引到大路旁(的水沟里)。“よ
うにする”，表示设法造成某种状态。往往不必译出，有时
可译成：使……。☆溝^{みぞ}を^ほ掘^{かんがい}って灌漑できるようにした／
挖了沟，能够灌溉了。

40. “考えもおよばない”，想也想不到。☆そんな事^{こと}があろ
うとは想像^{そうぞう}も及^{およ}ばなかった／万没想到会有那样的事。

41. “と”，一……就……。☆雨^{あめ}が降^ふると道^{みち}がぬかる／一下
雨，道路就泥泞难走。

42. “かさにきる”，仗势。☆親^{おや}の威光^{いこう}をかさに^き着る／仗老

子的势力。

43. “～たり～たりする”，又……又……。这个“たり”没有词尾变化，使用时，往往后接“する”。☆王おじいさんは解放前、地主になぐられたり、どなりつけられたりした／王大爷在解放前受到地主打骂。

44. “よく覚える”，很清楚地记得。

45. “～を例にとる”，引……为例。☆工場を例に取ってみる／姑且以工厂为例。

46. 在旧社会有过悲惨遭遇的老贫农含着泪花说。“目”，经验。“目にあう”，遭到……。

47. 旧社会遇到灾年，靠天，天不下雨；靠地，地里长不出庄稼。“てくれる”，给(我)作……。☆姉が日本語を教えてくれる／姐姐教我日语。

48. “たって”，即使。☆いくら忠告したってだめです／无论怎样劝告也是枉然。

49. “ものか”，怎能，怎么会。☆苦しみを恐れるものか／苦有什么可怕。☆寂しいものか／怎么寂寞呢(一点也不寂寞)。“もんか”，等于“ものか”，用于口语。

50. “日を浴びる”，晒在阳光下。

51. “ばかり”，接在动词过去时后面，表示刚刚。☆姉さんはただいま農村からかえったばかりだ／姐姐刚从农村回来。

52. “と”，它后面的动词“言っている”提前了。

生 词

^{だいかん}
大干ばつ(名) 大旱

^み
見まう(他五) 探望, 遭受

(不幸)

^{いつさくねん}
一昨年(名) 前年

^{おそ}
襲う(自五) 袭击

まれ(形动) 稀罕

もともと(副) 本来

あくる(连体) 明, 翌

めぐまれる(自一)

幸运, 施给

^{ひ で}
日照り(名) 旱

^{い ど}
井戸(名) 井

^{ひ あ}
干上がる(自五) 干透

^{たね}
種まき(名) 播种

まま(名) 照原样

まかせる(他一) 任凭

^{う か}
打ち勝つ(他五) 战胜, 克服

かつぐ(他五) 担, 挑

^ま
播きつけ(名) 播种

ちゃんと(副) 完全, 按期

^{た はた}
田畑(名) 旱田

^{あな}
穴(名) 洞

^ほ
掘る(他五) 挖

^{そそ}
注ぐ(自他五) 倒入

まく(他五) 播, 撒, 泼

メートル(名) (长度)米

^た
貯める(他一) 储存

^み
見つける(他一) 找到

^{たんこう}
炭坑(名) 煤井

たまる(自五) 积存

ひかえる(自一) 面临

ころ(名) 时候

^{はこ}
運ぶ(他五) 运送

なす(他五) 形成

^{ろうじやくだんじょ}
老若男女(名) 男女老少

^{けいしやち}
傾斜地(名) 倾斜坡地

^さ
下げる(他一) 吊, 挂

^{て お くるま}
手押し車(名) 手推车

^{さか}
坂(名) 坡道

^か
荷(接尾) 担